

高分子学会ユニチカ国際会議開催助成報告書

令和6年 9月20日

公益社団法人高分子学会
会長 殿

国際会議等の名称 (日・英)	第14回日台ニカ国高分子シンポジウム 2024 The 14th Japan-Taiwan Bilateral Polymer Symposium (JTBPS2024)
主催団体の名称 (日・英)	JTBPS2024 準備委員会 Organizer of JTBPS2024
開催期間	2024年7月26日(金) ~ 2024年7月30日(火)
会場	愛媛県松山市 えひめ共済会館
主 題 (主題がある場合は記入)	高分子科学の革新と展望：次世代機能性高分子の探究と開発
責 任 者	(フリガナ) 氏 名 イハラ エイジ 井原 栄治
	所属機関・職名 愛媛大学大学院理工学研究科・教授
参加者数	計 67名 ((国内) 42名、(海外) 25名) (申請時の予定参加者数 (国内) 30名、(海外) 25名)
参加国数	2ヶ国 (日本を含む)
助成金額	30万円

1. 実施事業の目的

材料科学の未来を切り拓く次世代の機能性高分子の開発と展望に焦点を当て、日本と台湾両国から才能あふれる第一線の研究者たちが集まり、高分子の合成、構造制御、物性機能に至るまで、最新の研究成果を発表し濃密で活発な議論を行うことにより、両国間の新たな共同研究のきっかけを生み出し、材料科学の新境地を探究することを目的とした。

コロナ禍により失われた数々の機会と時間を取り戻すことは容易ではないが、一方で、今こそ積極的な対面会議を実施し、日台両国間の研究者の相互理解と親善に向けた試みもたらす効果は絶大であると考えた。

本シンポジウムにおける討論の対象を以下に記す。

- 1)高分子の精密合成:革新的なリビング重合や高分子反応を駆使して、明確な構造を有する多元ブロック共重合体や環状高分子を始めとする複雑な高分子構造体を創出する新技術の開発を目指す。
- 2)高分子の構造制御:高分子の醍醐味の一つである自己組織化による構造制御の探究を掲げ、合成技術ならびに表面界面における構造制御技術に新しい展開を求める。
- 3)高分子の物性機能:高分子の機能を司る唯一無二の物性を、新しくまた高度な分析手法を用いて明らかにするとともに、複数の要求特性に対応できる分子構造設計にフィードバックし新たな材料開発に繋げる。

2. 実施事業の内容と成果 (主たる招待講演者、若手研究者や学生の交流、女性研究者キャリアアップのための取り組みの成果、高分子学会会員への寄与など)

2024年7月26-30日、愛媛県松山市えひめ共済会館において、第14回日台二カ国高分子シンポジウム(JTBPS2024)を日本側42名(教員17名、学生25名)、台湾側25名(教員15名、学生10名)の計67名の参加者の下、開催した。今回のJTBPS2024では、高分子の精密合成、構造制御、物性機能に関して、両国の研究者が一同に会して基礎から応用にわたる密度の濃い討論を行うことができた。

30件の口頭発表(招待講演)では、日本側15名(佐藤敏文教授(北海道大)、森秀晴教授(山形大)、吉江尚子教授(東京大)、早川晃鏡教授(東京工業大)、井上正志教授(大阪大)、宮田隆志教授(関西大)、尾坂格教授(広島大)、田中敬二教授(九州大)など)、台湾側15名(Ying-Ling Liu教授(国立清華大)、Rong-Ming Ho教授(国立清華大)、Shiao-Wei Kuo教授(国立中山大)、Chain-Shu Hsu教授(国立陽明交通大)など)にご講演いただいた。

若手研究者として、磯野拓也准教授(北海道大)、本多智助教(東京大)、相沢美帆助教(東京工業大)、下元浩晃准教授(愛媛大)、Yi-Tsu Chan教授(国立台湾大)、Cheng-Wei Huang助教(国立高雄科技大)、Cheng-Liang Liu教授(国立台湾大)、Yeo-Wan Chiang教授(国立中山大)には新しい世代の高分子研究に関してご講演いただき、参加者同士の活発な質疑応答や、新たな国際共同研究を始める議論につなげることができた。また女性研究者の参加に関しては、女性招待講演者は日本側の3名のみであったが、ポスター発表した大学院生の中では、日本側15名中6名、台湾側10名中6名と、全体の約半数を女子学生が占めた。

特に招待講演をした若手教員、ポスター発表をした大学院生にとっては、英語での研究発表と研究内容についての議論等、大変有意義な経験を積む機会となった。また、懇親会、コーヒークレイク、しまなみ海道へのエクスカージョン等を通じて、全参加者間で親交を深めることができた。

以上、高分子学会ユニチカ国際会議開催助成のご支援をいただいたことで、本シンポジウムを成功裏に終えることができ、主催者として非常に感謝しております。本助成金は、施設使用料と予稿集印刷費に有効に使わせていただきました。誠にありがとうございました。

3. 収支決算書

	収 入 (円)
高分子学会ユニチカ国際会議開催助成	300,000
吉田科学技術財団・国内開催国際会議助成	500,000
参加登録費	1,800,000
松山観光コンベンション協会助成金	400,000
愛媛県観光物産協会助成金	50,000
計 (円)	3,050,000

	支 出
施設使用料 (設備備品使用料含む)	252,120
予稿集印刷費 (80部)	52,210
講演者旅費補助	777,920
幹事宿泊費	32,120
コーヒースタンド懇親会、昼食費	1,415,150
参加者移動費用 (エキスカージョンのバス代等)	218,750
コーヒースタンド	92,112
美術館、博物館入場料 (エキスカージョン)	62,200
アルバイト代 (愛媛大学の学生)	107,000
雑費 (文具、名札等)	36,953
振込手数料 (各種支払い時)	3,465
計	3,050,000

助成金からの支出に係る証憑のコピーを報告書に添付してください。